

④ 優占種等の採集と処理

は ASA100・36 枚撮りポジフィルムを使用する。なおストロボを使用する必要のない澄明な海域、あるいは使用できない透明度の不良な海域では ASA400 を用いても良い。

群集構造を観察した群集内に優占する種や比較的多く混生する海藻・海草類の任意採集を行う。採集は海藻・草類を付着器ごと剥ぎ取るようにする。試料は現地で固定処理した後、実験室に持ち帰って種の同定を行う。

留意事項

- ・調査に使用する船舶は、調査区域に漁業権を持つ漁業組合に主旨をよく説明し、磯根の状況に詳しい漁業者と小型船舶の斡旋を依頼する。
- ・潜水観察は2名以上の調査員で行い、船上には少なくともテンドー1人を配置する。
- ・群落構造調査線は海藻・草群落分布把握調査のラインと兼用することは避ける。
- ・調査は、ライン上およびラインを中心に左右それぞれ約20mの範囲にある海藻群落の中から調査の主旨に適した群落を選び出して行う。
- ・採集した試料のうち破損しやすい種については5%ホルマリン海水で固定し、ポリ瓶等に封入するのが好ましいが、それ以外のはビニール袋にホルマリン原液を適量加えて固定、封入した方が持ち運びに便利である。

【とりまとめ】

(1) 海藻・海草群集分布図 (図 42 参照)

海藻・海草群落分布把握調査で把握した海藻群集に関する情報に基づいて図 32 に示す様式で海藻・海草群集水平分布図を作成する。

各群落はわかりやすく表示する。また観察結果は様式 1 に示すように、群集名の後に、混生種 (比較的多く出現するもの数種)、群集の面積を付記して整理する。なお群集の面積は図面上から読みとる。

(2) 群落構造図 (図 43 参照)

図 43 に示す様式で、群落構造調査の結果把握された各種群集の階層構造を整理する。

(3) 海藻・海草群集の垂直分布図 (図 44 参照)

図 44 に示す様式で、群落構造調査の結果把握された調査海域における海藻群集の垂直分布状況を整理する。またコドラート調査結果を整理する (様式 2)。

(4) 優占種等調査結果 (様式 3 参照)

採集された優占種等の分析結果を出現種目録 (様式 3) として整理する。分類体系は吉田忠生 (1998) 「新日本海藻誌」 (内田老鶴圃発行) による。

種の学名および和名は吉田忠生 (1998) 「新日本海藻誌」 (内田老鶴圃発行) による。

付表 1 (1) 調査時期の設定目安

代表的な藻場構成種	地 域	調査時期
コンブ類 (但しホンメコンブを除く)	北海道沿岸 津軽海峡沿岸 東北地方太平洋沿岸	周年 々々
アラメ カジメ クロメ	本州・四国・九州太平洋沿岸 本州・九州日本海沿岸 瀬戸内海沿岸 九州東シナ海沿岸	周年 々々
ホンダワラ類	北海道沿岸 東北地方太平洋沿岸 東北地方日本海沿岸 関東～近畿地方太平洋沿岸 四国・九州地方太平洋沿岸 中部～中国地方日本海沿岸 九州地方日本海沿岸 瀬戸内海沿岸 九州東シナ海沿岸 南西諸島	6～8月 3～5月 3～5月 2～4月 2～4月 3～6月旬 2～4月 3～4月 3月旬～4月 2～4月
ワカメ類	北海道～東北地方日本海沿岸 東北地方太平洋沿岸 関東～近畿地方太平洋沿岸 瀬戸内海沿岸 中部～中国地方日本海沿岸 九州地方日本海沿岸	4～5月旬 3～4月 3月 3～4月 3月 3月
ツルアラメ	北海道渡島地方 本州日本海沿岸 九州北西岸	周年 々々
アオサ類 イワヅタ類 ミル類	北海道～東北地方日本海沿岸 東北地方太平洋沿岸 関東～近畿地方太平洋沿岸 瀬戸内海沿岸 中部～中国地方日本海沿岸 九州地方日本海沿岸 九州東シナ海沿岸 南西諸島	6～7月旬 6～7月 4～6月 5月旬～6月 6月 5月 5月 4月

付表 1 (2) 調査時期の設定目安

代表的な群落	地 域	調査時期
アミジグサ類	日本沿岸全域	5～7月旬
フクロノリ類	日本沿岸全域	4～6月旬
テングサ	日本沿岸全域	6～9月
タンバノリ、ツルツル、フダラク、キトキ、ツカサミ、ベニ スタコ、トサカリ、カバノリ、ツノマタ、アツバカリメア、 アカハ、タルス、アカバギンソウ等の膜状あ るいはそれに類似した葉状を呈し、 しばしば大型化する紅藻類	北海道沿岸 日本沿岸全域	5～7月 4～5月

サンゴモ類（有節サンゴモ等）	日本沿岸全域	周年
殻状藻類（無節サンゴモ等）	日本沿岸全域	周年
アマモ類群落	北海道～東北地方日本海沿岸 東北地方太平洋沿岸 関東～近畿地方太平洋沿岸 瀬戸内海沿岸 中部～中国地方日本海沿岸 九州地方日本海沿岸 九州東シナ海沿岸 南西諸島	6～7月旬 6～7月 5～6月 5下旬～6月 6月 5月 5月 4月
スガモ類群落	北海道～関東地方太平洋沿岸 東北～中部地方日本海沿岸 関東～九州北部太平洋沿岸 中部～九州北部日本海沿岸	3中旬～5月上旬 3中旬～5月上旬 3～4月 3～4月

注；表に示した調査期間は成熟の少し前から成熟晩期までと幅を持たせてあるので，基本的には表示期間の最初の方に設定するのが良い．コンブ類（ホソメコンブを除く），アラメ，カジメ，ツルアラメは多年生種で群落は周年観察することができるので，同じ海域に分布する他種の群落の調査時期に合わせると良い．

様式 1

表 海藻・草群落分布把握調査結果

群落名	優占種	混生種	樹冠高 (cm)		被度 階級	基質	面積 (ha)
			平均	最大			
						合計	

注；群落の面積は作成した海藻群落分布図上から求めた数値を記入する。

様式 2

表 海藻・海草群落構造調査結果

網	学名	和名	調査地点番号 距離			
			ST. 1 (m)	ST. 2 (m)	ST. 3 (m)	ST. 4 (m)
緑藻						
褐藻						
紅藻						

注) 数字は被度 (%) を示す。また+は被度 5%未満を示す。

緑藻綱 CHLOROPHYCEAE

あおさ目 Ulvales

ひとえぐさ科 Monostromataceae

ヒトエグサ *Monostroma nitidum* Wittrock

あおさ科 Ulvaceae

ヒメアオノリ *Blidingia minima* (Nageli) Kylinボウアオノリ *Enteromorpha intestinalis* (Linnaeus) Neesアナアオサ *Ulva pertusa* Kjellman

しおぐさ目 Cladophorales

しおぐさ科 Cladophoraceae

タルガタジュズモ *Chaetomorpha aerea* (Dillwyn) Kutuzingタマジューズモ *C. moniligera* Kjellmanフサシオグサ *Cladophora fascicularis* (Mertens ex C. Agardh) Kutuzingオオシオグサ *C. japonica* Yamadaアサミドリシオグサ *C. sakaii* Abott

もつれぐさ目 Acrosiphoniales

もつれぐさ科 Acrosiphoniaceae

モツレグサ *Spongomorpha duriuscula* (Ruprecht) Collinsカギモツレグサ *S. mertensii* (Yendo) Setchell

褐藻綱 PHAEOPHYCEAE

いそがわら目 Ralfsiales

いそがわら科 Ralfsiaceae

マツモ *Analipus japonicus* (Hervey) Wynneイソガワラ *Ralfsia fungiformis* (Gunnerus) Setchell

あみじぐさ目 Dictyotales

あみじぐさ科 Dictyotaceae

エゾヤハズ *Dictyopteris divaricata* (Okamura) Okamuraアミジグサ *Dictyota dichotoma* Hudsonサナダグサ *Pachydictyon coreaceum* (Holmes) Okamura

様式 4

観 察 野 帳

群落番号	群落名	優占種	平均被度階級	基質	混生種
1	群落				
2	群落				
3	群落				
4	群落				
5	群落				
6	群落				
7	群落				
8	群落				
9	群落				
10	群落				
11	群落				
12	群落				

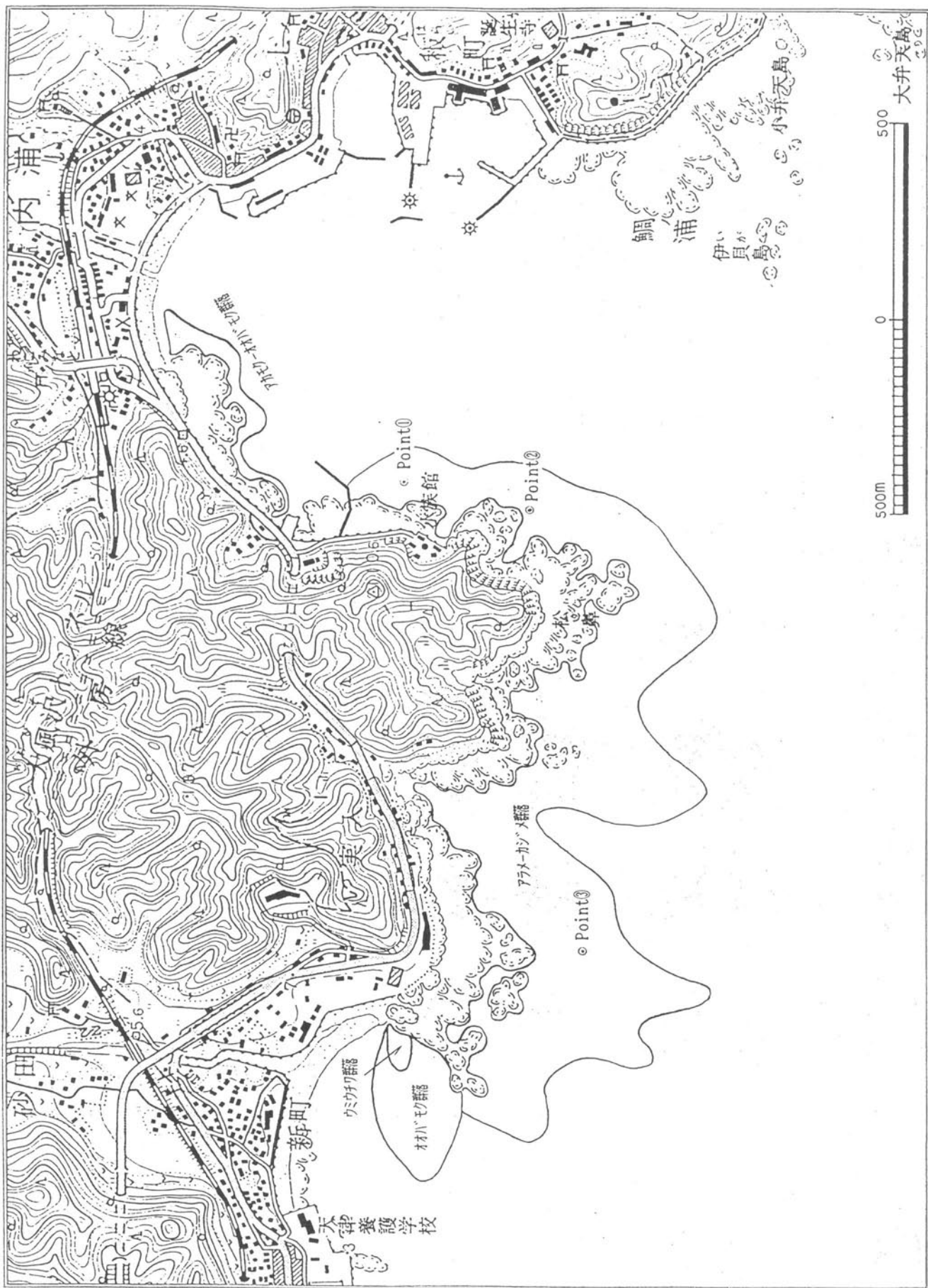


図 42 ○○海域の海藻・海草群集分布状況

群落区分	ノコギリモク-オオバモク群落	水深 ; 2~5 m	
階層構造	優占種名	高さ(cm)	被度(%)
I 藻冠層	ノコギリモク	140	50
	オオバモク	100	20
II 下草層	ヘリトリカニノテ		15
	キントキ		3
	ピリヒバ		2
III 基面層	無節石灰藻		30

(水深は平均水面からの値とする)

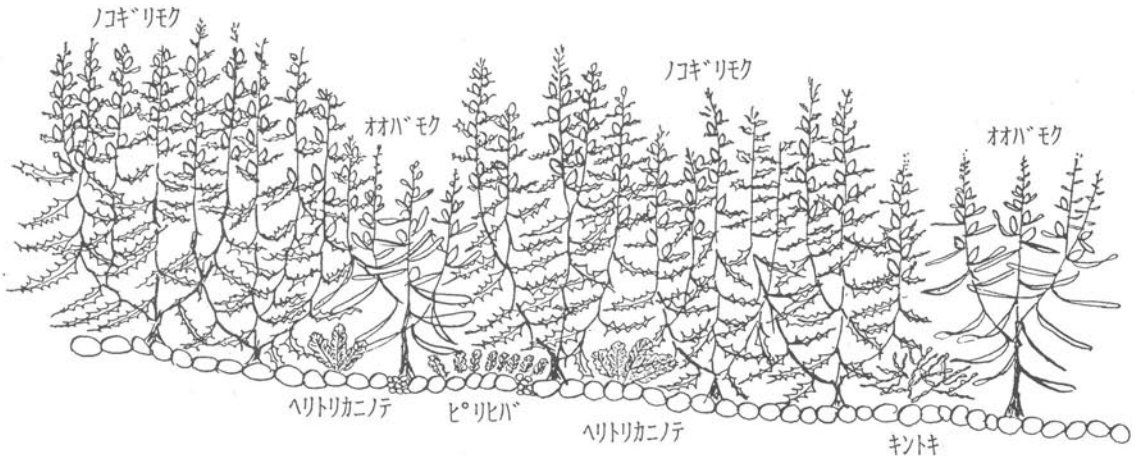
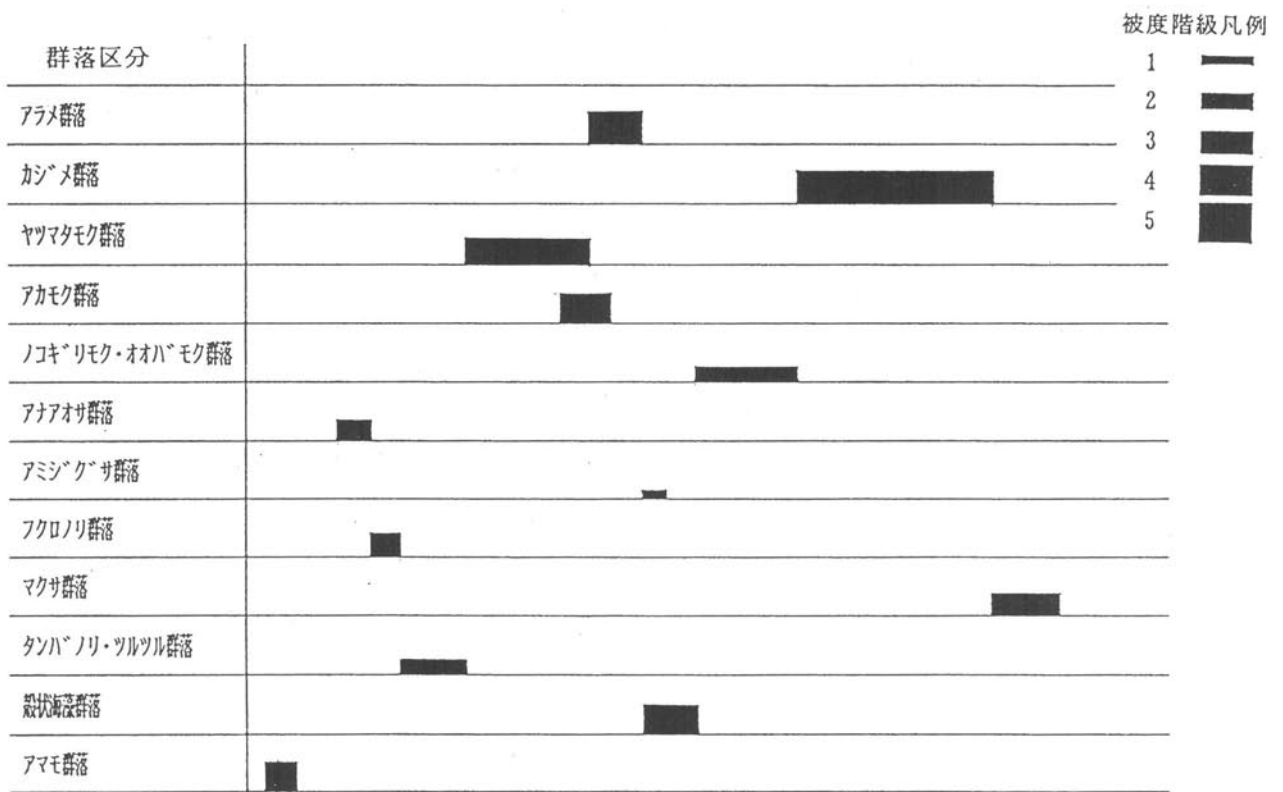
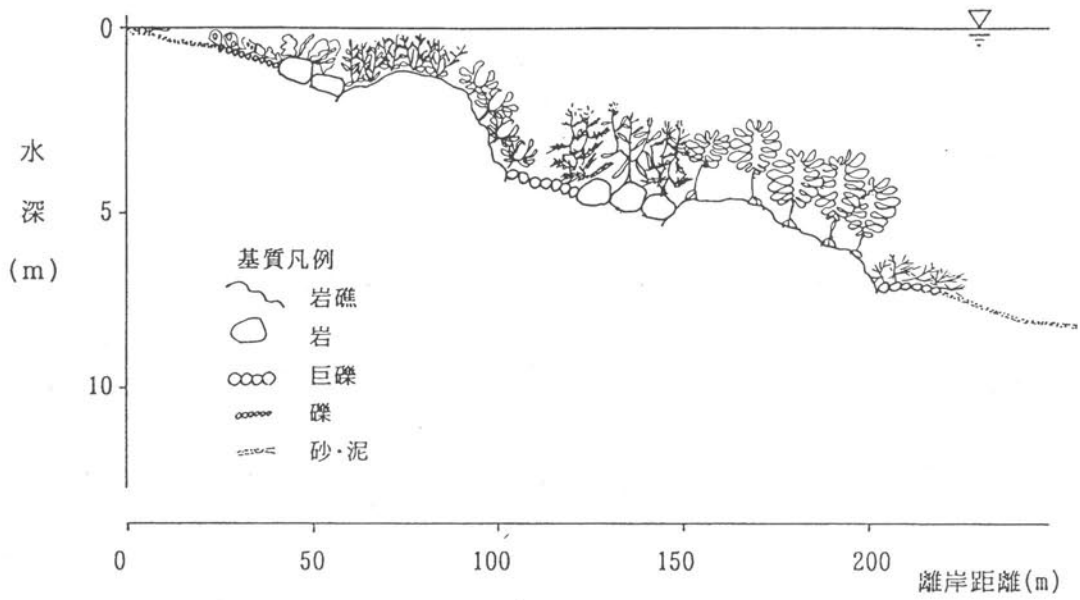


図43 ノコギリモク-オオバモク群集の構造模式



調査年月日：

図 44 海藻・海草群落の垂直分布模式